亞炭香報

発行所
亜炭広報社
編集人　伊達伸明

第八号
平成二十七年
三月二十五日

鉱山名が語る地域史

旧地名・人名いりみだれ

アナのお名前なんてーの？

亜炭に関する聞き取り調査をしていると、必ずと言っていいほど鉱山名のあいまいさ問題に直面する。炭鉱の様子については話がはずんでも名前は覚えていなかったり、人によって語る名前が違ったり…。地図にも炭鉱マークしかないことも多く、実態は深い闇の中だが、閉山から半世紀以上が経ってすっかり地名も変わった今、資料に残る鉱山名から地域史を読みとくのもまた一興。ほんとはどうなの？　アナのお名前なんてーの？

仙臺郷土研究・第2巻第10号（昭和7年10月）掲載の「仙台付近の亜炭坑分布図」。三居沢、金剛沢など現行の地名に混じって「香箱沢」「机ノ沢」といった雅びな名前も。

旧地名の宝庫

明治33年に鉱業法が改定され、それまで「官許を要する林産物」だった亜炭が鉱山物として取り扱えるようになったため、大小さまざまな業者が各自ここぞという場所を出願して採掘を開始した。仙台鉱山監督署編集の「鉱区一覧（大正15年版）」には、三居澤、沼底、亀岡、黒沼、清水澤、前掛、鹿野、二平、根岸、両足山、二ツ澤、狸舳、宛名倉、堂ケ澤、舟戸家、富澤、越路、猪洛、青葉などの炭鉱名が記載されており、また昭和7年の仙台郷土研究にも、机ノ澤、香箱澤などといった、そこから産する埋木で作られた品物を思わせる雅びな鉱山名が載っている（上図）。沼底は現在の青葉の森周辺、両足山は大年寺山、宛名倉は奥竜ノ口の左岸（青葉山ゴルフ場南側）一帯の旧名である。

沢名が多いのは

この中には沢名を用いたものが数多くある。これは鉱区開発の際に、沢水の浸食によって露出した炭層を目安に採掘場所を決めることが多かったためである。

開山にあたってはまず山師（あるいはその目を持った鉱山主）が場所に当たりをつけて届けを出し、一定期間の試掘調査の上採掘権を得る仕組みだが、そうそう住区近くに分厚い未開発層があるわけではない。そうした中で沢奥は探層調査の有力候補であった。

現在は宅地になっている八木山一帯も以前は複雑に谷と峰が入りくみ、堂ケ沢、芦ノ口沢、東二ツ沢、西二ツ沢等多くの沢が存在した。尾根伝いの生活道やそれを繋ぐ山道が網の目のように走り、往来する炭焼き・開拓農民・炭坑関係者たちは、原野の中の数少ないランドマークである沢を通名として用いた。

人名由来も

家族経営の小規模坑でも登記の際には縁起や由来にちなんだ屋号を用いることが多いが、白鳥、阿坂などのように鉱区権者の苗字をそのまま用いたところもあった。一度掘り始めると一定期間同じ場所を同じ坑夫が担当することが多いので、鉱区権がなくてもその坑を便宜上当人の名前で呼ぶこともある。それでも名称は働く当事者にとって特に大事な事柄ではなかったようで、その認識が現在からの追跡を難しくしている。

鉱区権委譲により

亜炭鉱山の経営は年ごとに厳しくなる。次第に鉱区が深くなってコストが上るのに霊要は減少。そこに坑夫の高齢化、鉱害補償問題が加わる。大多数の零細坑は他鉱山との合併や大規模坑への吸収、権利譲渡などをくり返して生き残りをはかるが、その都度改名することになるため、坑夫や鉱区が同じでも複数の名前が併存することになる。八木山の日赤病院の向かい側にあった堂ケ沢炭鉱は、付近を流れる沢由来の名前だが、後の権利者名で野又炭鉱とも呼ばれていた。前述の沼底炭鉱も後に所有者が変わって東拓炭鉱となる。また現在の大年寺山周辺の「根岸」「両足山」は吉田採炭所、仙台合同亜炭会社向山採鉱所という時期を経て、さらにその後吉田氏が経営する「八紘社炭鉱」に一本化された。

亜炭去って名を残す。鉱山名をひもとくと地域史を知るヒントが見えてくる。

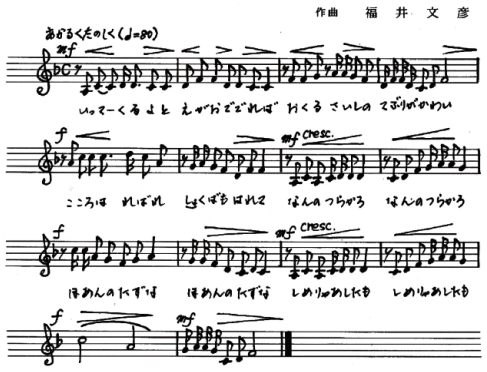
愛宕下導水トンネル釉
鹿落焼
沈殿泥釉薬化研究会

せんだい・鉱山の歌

鉱山保安法10周年記念

やまのひかり

作詞　三塚康文
作曲　福井文彦



㈠ 行ってくるよと　笑顔で出れば　仲間と共に
送る妻子の　手振りが可愛い　安全作業
心はればれ　職場も晴れて　気持ちもはずむ
何のつらかろ　保安の手綱　おいらの腕で
締めりや明日も　楽しいくらし　くろがねこがね

㈡ 一服済んだら　まずは点検　足場固めりや　鉱山は宝だ　どんと出そうぜ　どんと出そうぜ

㈢ あかり発破だ　心許さず　度胸自慢は　守る保安が　今日も元気で　今日も元気で

㈣ 待避はよいか　最後の五分　災害のもと　命の綱だ　嬉しい家路

㈤ 無事を祈って　待ってる妻子を　軽い足どり　山は夕焼　これも保安を　これも保安を

㈥ 夕餉の団欒　心にうかべ　口笛ふけば　童は小焼　守ったおかげ

仙台鉱山保安監督部

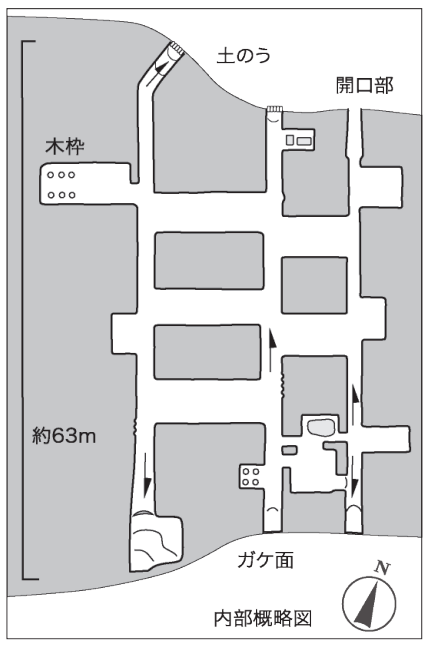
「守る保安が命の綱だ」

明治34年に設置された仙台鉱山監督署が改組・改称を経て、昭和24年に仙台鉱山保安監督部となるが、この年に発令された鉱山保安法の10周年を記念した歌がある。その名は「やまのひかり」。鉱山労働者の使命感と心意気を高らかに歌い上げる。作曲は市内の校歌や応援歌などに多くの作品を残した福井文彦氏。

軍用地下壕も調査

3月に報告会

東北大学植物園内



江戸時代は仙台城の「御裏林」として、維新後は陸軍の演習地、終戦後は米軍に接収され、昭和32年に返還されるまで常に一般の立ち入りが制限されてきた青葉山の現東北大学植物園。一帯に残る採掘坑調査の報告が3月11日に園内の講義室で開催され、昨年度「亜炭香古学」の活動の一環として進められた地下壕の調査内容が発表された。

野営の演習や軍事倉庫と思われる壕の中には亜炭・埋木層を掘り抜いている箇所もあり、埋木が露出した採掘坑を直接観察できる貴重な現場として撮影や実測を行なったわけだが、その中の最大規模のものは、3本の廊下と複数の広い部屋を持つすべて手掘りによる大空間。亜炭坑が本坑から次第に枝坑を伸ばして樹形に広がっていくのに対してこの壕は当初から格子状の区割りが計画的になされていることから、全国に残る軍用地下壕・倉庫との類似性を見るのが妥当とされる。植物園は全域が天然記念物に指定されており、この壕も散策路外のため、一般の見学は不可。

壕内の見取図

平行する幅1.8m程の3本の廊下の間に大広間があみだくじ状に並んだ構造。南向き（図面下方向）にやや下っており、排水溝が掘られている場所もある。ところどころに支保工（坑木）跡と見られる凹み、木枠、碍子などが残る。床面積は約840㎡。

亜炭香報は、地域資源を再発見するアートイベント「亜炭香古学 2014」《企画制作／伊達伸明，（公財）仙台市市民文化事業団（事業課 022-301-7405）》の活動の一環として発行されています。

本紙の編集及び「亜炭香古学」開催にあたって下記文献を参考にしました。引用資料として書籍広告風に掲載し、謝意と敬意を表します。

宮城縣編纂
東宮啓紀念行
宮城縣寫真帖
明治四十一年十月四日發行
印刷者　木戸有直　東京市日本橋區兜町二番地
印刷所　東京印刷株式會社　東京市日本橋區兜町二番地

左手に棒状の埋木を持ち、右手に剃刀をとり、まづ切口を二三回切つてから平らにする。ついでその表面を水でぬらしておく事が必要だ。
顕微鏡下の化石
奥津春生著
左手で圖のやうに剃刀を握り、人差指の力で手前にむかつて静かにひく。と、かつを節のやうにくるくるとまくれた切片が一枚見事に出来上つた。これを一寸、皿に入れておいた水に浸してから静かにスライドグラスの上にのせ、水でまくれた形をひろげ、これにカバーグラスをかける。これでプレパラートは出来上がりである。
發行者　目黒四郎　東京都神田區駿河臺三ノ一
印刷者　石村勲　東京都牛込區市谷加賀町一ノ一二
發行所　目黒書店

木津碩堂著
新らしい研究
芭蕉翁の面影
翁の見た亜炭、翁の文臺と埋木など全十五章
大正十一年十一月五日發行
發行者　石塚猪男藏　大阪市東區本町四丁目四番地
印刷所　橋本正隆　大阪市西區阿波座上通三丁目一九番地
發賣所　石塚松雲堂　大阪市東區本町四丁目　振替大阪一三六七五番

地域地質研究報告
5万分の1地質図幅
秋田（6）第98号
仙台地域の地質
北村　信・石井武政
寒川　旭・中川久夫
昭和61年3月24日発行
通商産業省工業技術院
地質調査所
〒305　茨城県筑波郡谷田部町東1丁目1－3

ふるさと仙台の日々の暮らしを詩心豊かにうたい上げた一二五〇余句
仙臺郷土句會発行
天江富彌編集
仙臺郷土句帖
翻刻　渡邊慎也
はるかなる戦地将兵にとどけた珠玉の十四輯　翻刻なる
翻刻・略解　渡邊慎也
助成　公益財団法人　仙台市市民文化事業団
印刷所　ハリウコミュニケーションズ株式会社

※連絡先等の引用は奥付のまま